

乳房炎部会から

～第15回乳房炎防除対策
研究会に参加して～



2008年2月14日、北海道厚生年金会館にて第15回乳房炎防除対策研究会 - コスト低減・良質乳生産をめざして - が開催されました。さまざまな問題が起きている現代の食品を考える中で、より消費者の厳しい目が向けられているものは品質です。良質な乳生産をもとめ、今回も多く酪農関係者が集まり、議論を交わしました。当日は、午前中に基調講演1題、午後から乳質改善大賞受賞者6名からの特別講演などがありました。

基調講演

農畜産業振興機構の長谷川敦氏から「中国の酪農と牛乳乳製品市場」と題して講演がありました。中国はインド・米国に次ぐ世界第三位の生乳生産国へと成長し、2005年の実績では32百万トンでした。そんな中国の首相である温家宝首相は2006年に行われた視察先の乳牛農場に置かれていたノートに「私には夢がある。それはすべての中国人、まず子供たちが、毎日500グラムの牛乳を飲むことだ」と書き付けたそうです。

一方、2007年3月10日～25日に行われた牛乳乳製品フェア in 上海では、地元産牛乳の価格の3.5倍～6倍以上する日本産牛乳が予想以上の売れ行きを示したということもあったそうです。その背景としては、北海道ブランドに対する根強い人気、味の良さ、安全・衛生的であるといったものがあります。

「北海道」というブランドを世界中に広めるためにもさらなる良質な乳生産をめざし、個々はもちろんでありますが、全体として生産者をはじめとする酪農関係者で手を取り合っていく必要があると思います。

特別講演

平成19年度北海道乳質改善大賞受賞者22名を代表して6名の酪農家による講演がありました。皆さんに共通している点は、過去の受賞者の方々とも共通していました。それは、牛体・牛床を清潔にすること、過搾乳をしないこと、パイプラインミルク等の定期点検を行うなどというものでありました。これらすべては、誰もが知っていることです。さらに、昔から同じことが幾度となく言われてきていることではありますが、なかなかうまくいかないのが現状ではないでしょうか。受賞者の皆さんは、「ただ当たり前のことをしているだけです」と述べられていましたが、そのことが一番大変なことだと思います。だからこそ、受賞者のみなさんにより多くの場で、どのようにその「当たり前」といわれることを行っているのかということぜひ講演していただきたいと思いました。

そして、酪農家および酪農関係者で多くの意見交換ができる場をつくっていくことができると感じました。

講演

JA足寄町生乳センターの永井照久氏から現場での乳質対策と題して講演がありました。JA足寄町での最初の取り組みは、事前に多くのデータを収集し、さまざまな聞き取り調査を行い、あらゆる原因をあげ、追究しようと試みたそうです。しかしながら、情報の多さに惑わされ、良い結果は得ることができなかつたのです。この結果から、「じっくりと時間をかけて100点を狙う」のではなく、「いかに短時間で及第点をとるか」、「どれだけ調べ、分析したか」あるいは「どれだけたくさん働いたか」ではなく、「どれだけ短時間で答えを探り、実行に移し、その効果を得るか」ということに考えを改めたそうです。そして、乳質改善を効率的に進めるために必要な情報として、1:乳検成績(牛群)、2:ミルクシステムの点検結果、3:バルクスクリーニング、4:現地での観察、5:搾乳作業の5つの項目についてあげていました。

一番の情報としては、現地での観察が重要だと思います。各酪農家によって、体質の違いがあるため、すべてが教科書どおりにいくわけがないのです。そして、乳質改善を行うとき、それはまず改善しようとする意識、さらにより多くの会話が必要であると思いました。

(音別白糖支所家畜診療課 藤田 慎悟)